

2019 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
 修士課程 2 年制 入学試験

【 専門科目・共通問題 】
 問題冊子

試験開始まで次の注意事項を熟読すること。

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子は開かないこと。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答は問題の指示に従い解答用紙の所定欄に黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入すること。
【重要】問題の指示に沿った方法で解答用紙に解答を記入すること。
4. 次の解答用紙の所定欄に受験番号・氏名を必ず記入すること。
 「共通問題」の解答用紙（1 枚）
解答用紙の所定欄に受験番号・氏名の記入がない場合は採点対象としない。
5. 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

■ 共通問題

はじめに専門科目「共通問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。試験開始から 45 分経過した時点で一度試験を中断し、「共通問題」の解答用紙を回収します。回収後「選択問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。

■ 選択問題

「共通問題」の解答用紙を回収後、「選択問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。配付の完了後に試験を再開し、残り 45 分の試験時間を設けて、全体で 90 分を確保します。

6. 各研究領域の選択問題のページ番号は、試験再開後に「専門科目・選択問題」問題冊子 p.1 の目次を参照すること。出願した研究領域以外の問題を解答した場合は採点対象としない。
7. 出願した研究領域の選択問題の中から 1 問を選択し 解答すること。2 問以上解答した場合は採点対象としない。
8. 【重要】選択した問題で指定されている解答方法に従って解答すること。
9. 選択した問題の番号を、解答用紙の「選択した問題番号」欄に必ず記入すること。「選択した問題番号」欄に記入がない場合は採点対象としない。

【記入例】A-1 の問題を選択した場合

A - 1

■ 解答用紙の回収【重要】

10. いかなる場合でも以下の解答用紙を必ず提出すること。
 - ① 「共通問題」の解答用紙（1 枚）…試験開始から 45 分経過した時点で回収
 - ② 「選択問題」の解答用紙（1 枚）…共通問題の解答用紙回収後、配付し、
 専門科目すべての試験が終了した時点で回収
11. すべての試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

以上

2019 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制入学試験
【共通問題】問題冊子

目次

I. 共通問題・・・・・・・・ 2～4

選択問題の問題冊子と解答用紙は、共通問題の解答用紙回収後に配付する

2019 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制 入学試験問題

【共通問題】 1 / 3

【解答用紙の罫線に沿って横書きで解答すること。設問ごとに定める行数指定に従って解答すること。ドットは無視してもよい。】

【設問 1】

「コーホート」とは、ある特性を共有する人々の集団を指す。特に、同じ期間（同じ年）に出生した人々の集団を「出生コーホート」と呼ぶ。図 1 は、日本における夫と妻それぞれについて、年齢別累積初婚率を出生コーホート別に示したものである。この率は、同一コーホートに属する千人のうち、当該年齢までに結婚をした経験のある者の数で表されている。

男女の婚姻の傾向及びその変化について、この図から読み取れることを 10 行程度で書きなさい。

※この図は、著作権の関係により掲載ができません。

図 1. 出生コーホート別にみた年齢別累積初婚率（人口千対） 一昭和 43・48・53・58・63 年生まれ一

※厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）「我が国の人口動態 一平成 28 年までの動向一」より

2019 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制 入学試験問題

【共通問題】 2 / 3

【設問 2】

図 2 は、日本における夫と妻それぞれについて、年齢階級別にみた離婚件数構成割合の年次推移（昭和 25 年～平成 28 年）を示している。また、図 3 は、男女別・年齢階級別にみた日本の人口構成割合の年次推移（昭和 25 年～平成 28 年）である。

男女の離婚の傾向及びその変化について、図 2・図 3 から読み取れることを 10 行程度で書きなさい。

※この図は、著作権の関係により掲載ができません。

図2. 夫・妻の年齢階級別にみた離婚件数構成割合の年次推移（昭和25年～平成28年）

※この図は、著作権の関係により掲載ができません。

図3. 男女別・年齢階級別にみた日本の人口構成割合の年次推移（昭和25年～平成28年）

2019 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制 入学試験問題

【共通問題】 3 / 3

【設問 3】

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

今までの夫婦や家庭のあり方をいったんリセットし、生活を見直す「卒婚」というスタイルが注目されています。卒婚の命名者は、『卒婚のススメ』（静山社、2004 年）の著者、杉山由美さんです。卒婚の表すところは、自由を認め合って、ゆるやかなパートナーシップを築いていくという「新しい夫婦のカタチ」。離婚という形をとらないけれども、これまでの生活からは脱却し、夫婦それぞれが新しい形で自由に自分の人生を楽しむ、というものです。

例えば、「定期的に連絡を取りながら別居生活を始める」「妻は都心で生活し、夫は田舎暮らしをする」「妻が世帯主となり、夫は妻を支える」「同居をしていますが家事は別々に行い、それぞれ自由に過ごす」など、卒婚の形はさまざまです。自分たちに合ったスタイルで、それぞれの夢の実現に向けて活動を始めるのです。

※斉藤徹、50 歳代夫婦の新しいトレンド「卒婚」、日本政策金融公庫 調査月報、No. 104（2017 年 5 月）より

(1) 卒婚が増えていると仮定した場合、増えている理由について、設問 1・2 の図 1～3 も参考にしながら社会・文化・産業・歴史・健康・心理などの背景に基づく仮説を立て、5 行程度で書きなさい。

(2) この仮説を検証するための研究計画を立て、具体的な検証方法を 10 行程度で書きなさい。その際、適宜、図表を用いてもよい。ただし、図表は文字数としてカウントしない。

なお、解答については、(a) 内容に誤りがないか、(b) 扱われている情報に過不足はないか、(c) 表現に工夫がなされているか、(d) 数量が示す意味について深く分析されているか、(e) 複合的観点に基づく論述がなされているか、などの観点から評価されるものとする。

採点欄

受験 番号					
氏名					

【専門科目・共通問題（必須）】 解答用紙

0 5 10 15 20

100

200

300

400

500

解答欄

裏面を使用してもよい。

(こちらは裏面です)

